

【QC（QUALITY CONTROL、品質管理）】



本製品の製造国（ベトナム、インドネシア）の工場全般とは言いませんが、現地における日本の製造業界標準のQC（QUALITY CONTROL、品質管理）への体系的な取り組みは、まだまだ遅れていると感じています。

発展途上国（または地域）での未舗装道路の応急整備など、これまでインフラとしての活用に大量輸出されていた経緯もあってか、QCへの取り組みに対する意識が後手に回っている印象です。

ただ、こちらもやはりコスト削減を追求したことが招いた結果とも言え、根底には取引者間におけるフェアトレード意識の欠如があると考えています。

弊社契約工場では、お客様に高品質な商品をお届けするために、製品の各プロセスに独自の品質基準を設け、日本の品質基準を満たすための厳格なQC（品質管理）を実施しています。

●原材料の検査

●生産中のサンプリング検査（不良品を早期発見）

→原材料となるコイヤー繊維のブローイング（乾燥）工程における異物混入検査

→機械織り（5M以上の長尺品）製造時の山数（編み目の数）の目視検査

●完成品の全数検査（日本基準の品質チェック）

→巻き取り～バンド結束工程での目視による異物混入検査

●現場の安全管理と教育、日本式5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の段階的導入

自社工場ではないため、こうした文化の醸成には時間がかかっていますが、日本市場向けのマーケティングとして理解いただき、毎年現地へ赴きこれをレビューする体制としています。

●輸入後、日本国内での入庫時検査

→①コンベックスを使用した製品幅検査、②デジタルノギスを使用した端部厚40mm以上であることの検査

●日本での出荷時検品

→①コンベックスを使用した製品幅検査②天然製品の個体差と判定できない程度の不良の有無

●工場へのフィードバックと改善策の提案

●品質トレーサビリティシステムの導入（ロット管理など）

・乾燥工程後に製造される一番細い撚糸のロット情報管理（生産工場、製造年月日）

・撚糸同士を撚ったロープのロット情報管理（生産工場、製造年月日）

画像は、ベトナムベンチャー省で製造される一般的な品質のマットです。これらを並行輸入しただけの海外資本の商品には、衛生上問題となり得る海洋漂流物（ビニール紐やサージカルマスク等）が混入している恐れがあります。じゅうぶんにご注意ください。